

新しい豊かさ協創2 夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト

【主担当部局：地域連携部スポーツ推進局】

プロジェクトの目標

地域のスポーツ活動が活性化し、スポーツを通じて産業や観光の振興が図られるとともに、本県の選手がオリンピックやパラリンピックなどの国際大会や国民体育大会などで一層活躍し、県民の皆さんが、その姿に夢と感動、郷土の誇りを感じることで、地域の一体感が醸成され、活力に満ちた元気な三重となっています。

そのため、4年後には、スポーツを地域経済の発展等につなげる市町の取組が推進され、また、次代を担うジュニア競技者の育成や、障がい者スポーツの充実などによって、県民の皆さんのスポーツへの関心が高まっています

評価結果をふまえたプロジェクトの進展度と判断理由

進展度 *	判断理由

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

プロジェクトの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
県内スポーツ大会・イベントの参加者数	/	187,410人	192,417人	202,700人		202,700人
	182,509人	240,989人	222,169人			/

目標項目の説明と平成27年度目標値の考え方

目標項目の説明	県、市町が主体となって実施するスポーツ大会・スポーツイベントの参加者数
27年度目標値の考え方	平成25年度の実績値が平成27年度の目標を達成できたため、平成27年度の目標値と同数を目指して設定しました。

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
1「スポーツによる地域の活性化」に挑戦します！	「スポーツボランティアバンク」の登録人数	/	250人	400人	550人		600人
		—	95人	523人			/
	スポーツによる地域経済の活性化に取り組む市町数	/	2市町	4市町	6市町		8市町
	市町数（累計）	—	2市町	4市町			/

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況
2「みえのスポーツを支える人づくり」に挑戦します！	強化指定する高校運動部活動数	/	6部	10部	20部	/
		—	8部	21部		
	県障がい者スポーツ大会参加者数	/	1,450人	1,500人	1,550人	/
		1,373人	1,300人	1,501人		

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予算額等	49	48	61	

平成26年度取組概要

- ①スポーツを通じた地域の活性化を推進するため、「みえのスポーツ・まちづくり会議」を開催し、幅広い分野の方から意見を聴取（第1回7月23日開催）
- ②「みえのスポーツ応援隊（スポーツボランティアバンク）」の登録者拡大のための普及啓発や登録者への講習会・研修会を開催するとともに、市町等が開催するスポーツイベント等へ派遣（8月末現在登録者数540名、研修会・講習会の開催9月5日、9月21日、派遣人数9月末見込みのべ66人）
- ③スポーツを地域の経済や観光の振興につなげるため、スポーツコミッションの推進に向けた市町の取組に対して支援（実施予定市町：桑名市、大台町、紀北町）
- ④市町等が開催する大会やスポーツイベント等へメディカルサポート（スポーツ医科学に関する支援）の実施（実施予定市町：桑名市、名張市、亀山市、志摩市、菰野町）
- ⑤市町が開催するスポーツ教室やイベント等への県内トップチームの派遣（実施予定市町：尾鷲市、いなべ市、志摩市、紀北町）
- ⑥競技人口が少ない競技の小中学生を対象とした競技者の発掘・育成（6競技）
- ⑦ジュニア選手の意識醸成と計画的な育成・強化のため、チームみえジュニア指定（536名）、指導者・保護者研修プログラムの実施（7月6日：約800名）及びトップアスリート応援募金を活用して、国内外で活躍が期待される「チームみえスーパージュニア」を支援（8月12日11名を指定）
- ⑧中学校・高等学校運動部の強化指定による運動部活動の支援（5月12日指定：中学校4校4部、高等学校26校54部）
- ⑨中学校・高等学校運動部の指導者の資質向上のため、指導者研修会の開催（第1回：8月28日高等学校48名、中学校4名）及びみえスポーツアドバイザーの派遣（月16回派遣）
- ⑩全国障害者スポーツ大会において、全競技に参加できるよう、新たな障がい者スポーツ競技団体の結成を支援（3チーム（知的障害者バスケットボール（女子）、知的障害者バレーボール（男子、女子））

【中間進捗情報】

平成26年度の上半期の成果と残された課題

- ①「みえのスポーツ応援隊（スポーツボランティアバンク）」の登録者数が540人となり、みえのスポーツを支える人づくりを推進することができました。今後も、登録者の拡大を図るとともに、資

- 質向上にも努め、本県スポーツを支える人材の育成と活用の拡大を図っていく必要があります。
- ②みえのスポーツ地域づくり推進事業（スポーツコミッション事業、トップチーム派遣事業、メディカルサポート活用事業）については、未実施市町への働きかけを行うなど、本年度の取組市町を決定し、スポーツによる地域の活性化を推進することができました。今後も、市町と連携して地域の活性化に向けた取組を推進していく必要があります。
 - ③ジュニア選手の発掘の取組を6競技実施することで、ジュニアクラブで継続的に活動する選手が現れています。また、全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定することで、競技団体や指導者がジュニア育成の重要性を認識することにつながりました。さらに、将来国内外で活躍できるようなトップジュニア選手を「チームみえスーパージュニア」として指定し遠征・合宿等の強化活動を支援しています。今後は、目前に控えた平成30年度全国高校総合体育大会に向けたジュニア選手及び少年選手の育成・強化を図る必要があります。
 - ④新たに中学校運動部を強化指定するとともに、高等学校運動部の強化指定を拡充し、遠征・合宿等の強化活動の支援を進めるなどの取組を行ったことで、本年度のインターハイでの入賞件数を増加させることができました。今後は、さらに強化指定運動部の拡充を行い、運動部活動の充実を図る必要があります。
 - ⑤平成33年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、メンバーの確保と競技団体の育成に取り組んでいます。今後、残る競技団体の結成を図るとともに、既存の障がい者スポーツ競技団体の強化や障害者スポーツ指導員の育成が必要です。

新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議における主な意見

- ①東京で開催されるパラリンピック、三重県で開催される全国障害者スポーツ大会という、2大イベントを契機として、障がい者スポーツの推進を図る必要がある。
- ②障がい者スポーツの推進については、現状では課題が多いため、全国障害者スポーツ大会までに普及と強化を一気に推進することは困難が予想される。大会後も見据えて、組織の整備を最優先すべきである。
- ③障がい者スポーツの普及・啓発のために、一般の方が取り組むスポーツと障がいのある方が取り組むスポーツの壁（バリア）をなくす方向で取組を進めてはどうか。
- ④女性がスポーツに親しみやすい環境をつくるためには、男性の理解が一番重要になってくる。

平成26年度の下半期（翌年度）に向けた改善のポイントと取組方向

〈下半期〉

- ①「みえのスポーツ応援隊」について、メディア等も活用してさらなる加入促進を行うとともに、市町で行われるマラソン大会等冬場のイベントにおいて、活躍の機会の拡大を図っていきます。
- ②みえのスポーツ地域づくり推進事業（スポーツコミッション事業、トップチーム派遣事業、メディカルサポート活用事業）について、年度当初に策定した計画に沿って取組を進めます。
- ③ジュニア選手及び高校生アスリートの育成・強化を図るため、競技団体の強化活動について実態を把握し、成果の検証を行っていきます。
- ④全国障害者スポーツ大会の競技団体の結成に努めるとともに、県内全域で活動する障がい者スポーツ競技団体の活動支援や、中級障害者スポーツ指導員養成のための講習会を実施し、競技スポーツの充実を図ります。

〈翌年度〉

- ①「みえのスポーツ応援隊（スポーツボランティアバンク）」については、今後は、平成 30 年度の全国高等学校総合体育大会や平成 33 年の国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の本県開催に向けて、さらなる登録者数の拡大とともに組織強化、人材の育成を図っていきます。
- ②みえのスポーツ地域づくり推進事業（スポーツコミッション事業、トップチーム派遣事業、メディカルサポート活用事業）については、未実施の市町への働きかけを行うなど、スポーツを通じた地域の活性化を推進していきます。
- ③競技団体と連携し、ジュニア選手の発掘・育成の取組を推進していきます。また、少年選手の育成強化を図るため、中学校・高等学校運動部の強化指定の拡充を図るとともに、中高の連携を図りながら、競技種目別の育成・強化の取組を行います。
- ④ジュニア選手の育成・強化を図るため、「チームみえジュニア」として指定し、選手や指導者・保護者に研修会を開催するとともに、トップアスリート応援募金を活用して「チームみえスーパージュニア」の指定選手の支援を進めていきます。
- ⑤平成 26 年度までに結成した競技団体を含め、県内全域で活動する障がい者スポーツ競技団体の活動支援のほか、準備委員会の設置の検討や、上級指導員や審判員の養成、スポーツ実技指導の充実など、平成 33 年に開催予定の全国障害者スポーツ大会に向けた準備を進めます。